



第48号

梅苑会報



福島県立福島高等学校



福島から世界へ

SSHの役割

本校は文部科学省より平成十九年度からSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受け、今年三月で10期10年目を終えようとしている。この十年間で、多くの科学技術系の人材を育成してきた。活動成果は国内外で高い評価を受け、たびたびメディアでも紹介されてきた。

東日本大震災から丸六年。復興も進んでいる中で、未だ原発事故による風評は払拭されていない現状がある。県内放射線量の調査結果の国内外への発信、好適環境水を活用した福島復興への取り組みなど、福島高校SSHは福島復興にも積極的に取り組んできた。

今、本校SSHは新たな五年間の指定に向けて準備をしている。これまでの活動をさらに発展させ、地域のリーダーとして福島創生を担う人材、そして世界で活躍する科学技術系人材の育成を目指していく。

今後の福島、日本を担う人材が育っていくことに期待したい。



福島高校バスケットボール部 OB・OG会

「創立70周年を祝う」

福島高校バスケットボール部OB・OG会
事務局長 鈴木宏幸（高36回卒）



本校バスケットボール部OB・OG会は1月2日、創立70周年記念祝賀会（OG輩出10周年を兼ねる）を開催しました。本校同窓会役員並びに市内高等学校バスケットボール部OB・OG会の方々のご臨席を賜わり、萩原義弘会長以下110名のOB・OGが出席しました。渡辺健寿同窓会長、高橋雅行ハンドボール部OB会長から祝辞を賜わり、歴代会長の故斎藤芳高、小林忠道、高橋一夫の各氏の功労者表彰を行い、続いて小林忠道名誉会長と安西わかなOG1期生の記念講演を行いました。祝賀は、渡辺博美常任幹事の発声で乾杯し、高校時代の思い出とバスケットボール談義に花を咲かせ、和やかに親睦を深めました。

16回奨学金

第16回卒 久米允彦



我ら16回生は、先の大戦の敗戦の年に生まれた。育ちざかりにあの食糧難を乗り越えて育った子供で、梅原に憧れて漸く母校の門をくぐった。先生方に最初に言われたことは「諸君らは非常に出来た。昭和二十年四月に旧制福島中学に入学、四ヶ月半後に終戦、爾後、中学・高校を経て、昭和二十六年三月、六年間在籍し、新制高校三年卒として卒業しました。健坊杯ゴルフ愛好会は、三回卒の同級生が秋に年一回、地元の「福島ゴルフ倶楽部（民報コース）」にて開催し、その夜懇親会を開くのが定例でした。昭和四十二年に第一回をスタートしてから中断することなく、昨年一〇月の第五〇回で一応幕を閉じました。五〇年・半世紀の永きにわたって、第

健坊杯半世紀でお終い

関東梅苑会顧問 山口隆



私たちが福高三年卒は、昭和二十年四月に旧制福島中学に入学、四ヶ月半後に終戦、爾後、中学・高校を経て、昭和二十六年三月、六年間在籍し、新制高校三年卒として卒業しました。健坊杯ゴルフ愛好会は、三回卒の同級生が秋に年一回、地元の「福島ゴルフ倶楽部（民報コース）」にて開催し、その夜懇親会を開くのが定例でした。昭和四十二年に第一回をスタートしてから中断することなく、昨年一〇月の第五〇回で一応幕を閉じました。五〇年・半世紀の永きにわたって、第

一回から最後まで、運営・幹事役を務めてくれた篠木茂夫君（野球部で春県大会で優勝した名投手）には、本当にご苦労を戴きました。用意された商品には心のこもった数々がいつも準備されてピクニック。深く感謝します。

また懇親会には、ゴルフを行わない同期生も参加して、紅顔の福高生のころに帰っての思い出話で、いつも愉快な懇親会になります。

我々も年齢八〇歳を越えました。ゴルフ参加者は、多い時で四十五名前後の時もありましたが、最後は八人二組でのコンペでした。スコア等も中々立派で、80を切らないと優勝できず、またベテランになってもアンダーで頑張る強者が居るのには驚きです。永い年月のコンペの中で、一回もホールインワンが無かったのが非常に心残りです。

たので、まずK君の真意（今となつてはK君に大変失礼をしたと思つてゐる）を小生が同級生の前で聞くこととなった。彼曰く「福高生であることを誇りに思い、今日まで頑張つてこられた。これも偏に母校のおかげだ。ついでには何がしかの形で恩返しをしたい。」これは嬉しかったし泣けましたね。3年間母校で培われた福高精神が彼のDNAとして脈々と生き続けていた。まさに「花咲き実りて世のため立たん。」です。在校生諸君に大いなるエールを送ると共に我が母校に栄えあれ。

健坊杯の名称の由来は、福高時代に野球部のセカンドだった飛島健君（父親は当時の福島民報社の社長長城氏、彼の実家と私の家は五百メートルの距離、期末試験にはよく彼の家に泊まって勉強したものです）。その彼が大学三年の時に早逝した。彼を偲ぶよすがとして、またその他のメンバーの供養も含めて、健坊杯としました。

参加者には、故人では、奥山健一君（元福島県副知事）、羽田孝夫君（元福島ゴルフ倶楽部社長、現役では後藤巨君（元FM東京社長）等多彩な顔ぶれです。

最後に、優勝カップの優勝者の名前を書いた「タッグ」が五〇本もついているのが壮観でした。

今回の五〇回の記念大会をもって健坊杯は一応終了しますが、次からは有志だけの参加者で続けていく予定です。

平成29年度予算書（28年9月1日～29年8月31日）

平成29年度 一般会計予算書

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	1,142,911	
(2)入会金	945,000	卒業生（315名×3,000円）
(3)年会費	2,915,000	卒業生（315名×1,000円） 会員（約1,300名×2,000円）
(4)雑収入	50,000	利息、寄付金等
(5)繰入金	500,000	母校後援会会計より
合 計	5,552,911	

2.支出の部

項目	予算額	摘要
1.事業費	3,530,000	
(1)総会費	600,000	定期総会開催に関する費用
(2)会報費	2,600,000	梅苑会報印刷、郵送料、印刷用紙
(3)母校後援費	280,000	卒業生証書ホルダー
(4)特別事業費	50,000	
2.運営費	905,000	
(1)会議費	250,000	役員会、幹事会
(2)事務経費	5,000	振り込み手数料他
(3)交際費	200,000	関東・みやぎ梅苑会お祝い、職員健別、その他
(4)慶弔費	50,000	
(5)通信費	50,000	切手、郵便代
(6)雑費	300,000	関東・みやぎ梅苑会出席者旅費
(7)雑費	50,000	
3.会員名簿管理費	702,000	平成28年度分会員名簿管理費
4.予備費	415,911	
合 計	5,552,911	

項目間の流用をお認め願います。

平成29年度 母校後援会費予算書

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	8,994,793	
(2)会費	1,500,000	卒業生（315名×1,000円）、会員（約750名）
(3)雑収入	1,500	利息等
合 計	10,496,293	

2.支出の部

項目	予算額	摘要
(1)後援会費	1,000,000	母校への助成
(2)部活動助成	700,000	全国大会出場への助成金
(3)梅苑会館維持管理費	500,000	
(4)太宰府梅苑会構み立て	200,000	
(5)予備費	8,096,293	一般会計への繰入金等
合 計	10,496,293	

項目間の流用をお認め願います。

平成28年度 福島高校同窓会梅苑会館維持管理会計予算書（特別会計）

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	3,198,487	
(2)繰入金	500,000	母校後援会会計より
(3)雑収入	300	利息等
合 計	3,698,787	

2.支出の部

項目	予算額	摘要
(1)修繕費	200,000	布設代等
(2)予備費	3,498,787	
合 計	3,698,787	

項目間の流用をお認め願います。

平成29年度 県立福島高校同窓会太宰府梅基金会計予算書

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	1,450,702	
(2)同窓会梅基金	900,000	同窓会会費梅基金より
(3)繰入金	200,000	母校後援会会計より
(4)雑収入	100	利息等
合 計	2,550,802	

2.支出の部

項目	予算額	摘要
(1)飛び梅維持関係	400,000	交際費、接待費、諸経費等
(2)飛び梅管理費	40,000	肥料・消毒代等
(3)予備費	2,110,802	
合 計	2,550,802	

項目間の流用をお認め願います。

平成29年度 一六回奨学会計予算書

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	1,000,000	
(2)同窓会寄付金	3,500,000	平成29年度寄付金
(3)雑収入	50	利息
合 計	4,500,050	

2.支出の部

項目	予算額	摘要
(1)交付金	3,500,000	平成29年度交付金（7名）
(2)予備費	1,000,050	
合 計	4,500,050	

平成28年度決算書（27年9月1日～28年8月31日）

平成28年度 一般会計決算書

収入決算額…6,392,008円 支出決算額…5,249,097円 次年度へ繰越額…1,142,911円

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	2,394,792	2,394,792	
(2)入会金	945,000	933,000	卒業生（311名×3,000円）
(3)年会費	2,915,000	3,051,000	卒業生（311名×1,000円） 会員（1,096名）
(4)雑収入	100,000	13,216	オリジナルタオル売り上げ、利息等
(5)繰入金	0	0	
合 計	6,354,792	6,392,008	

2.支出の部

項目	予算額	決算額	摘要
1.事業費	3,580,000	3,558,627	
(1)総会費	600,000	625,346	定期総会開催に関する費用
(2)会報費	2,600,000	2,657,521	梅苑会報印刷、郵送料、印刷用紙
(3)母校後援費	280,000	275,760	卒業生証書ホルダー
(4)特別事業費	100,000	0	
2.運営費	855,000	968,470	
(1)会議費	250,000	236,796	平成27年第2回、H28年第1回役員会
(2)事務経費	5,000	4,020	振り込み手数料、文具費
(3)交際費	150,000	208,576	関東・みやぎ梅苑会参加費、転出者健別
(4)慶弔費	100,000	31,470	
(5)通信費	50,000	35,130	往復葉書、切手
(6)雑費	250,000	472,478	関東・みやぎ梅苑会出席者旅費
(7)雑費	50,000	0	
3.会員名簿管理費	710,000	702,000	平成27年度分会員名簿管理費
4.予備費	1,209,792	0	
合 計	6,354,792	5,249,097	

平成28年度 母校後援会費決算書

収入決算額…11,270,223円 支出決算額…2,275,430円 次年度へ繰越額…8,994,793円

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	9,868,082	9,868,082	
(2)会費	1,500,000	1,363,200	卒業生（311名×1,000円） 会員（689名）
(3)雑収入	1,500	38,941	利息、タオル・CD売り上げ
合 計	11,369,582	11,270,223	

2.支出の部

項目	予算額	決算額	摘要
(1)後援会費	1,000,000	1,068,950	同窓会HP開設・更新、タオル・クリアファイル・CDプレス等
(2)部活動助成	700,000	506,480	全国大会出場助成等
(3)梅苑会館維持管理費	500,000	500,000	
(4)太宰府梅苑会構み立て	0	200,000	
(5)予備費	9,169,582	0	
合 計	11,369,582	2,275,430	

平成28年度 福島高校同窓会梅苑会館維持管理会計決算書（特別会計）

収入決算額…3,198,487円 支出決算額…0円 次年度へ繰越額…3,198,487円

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	2,698,226	2,698,226	
(2)繰入金	500,000	500,000	平成28年度分
(3)雑収入	350	261	利息
合 計	3,198,576	3,198,487	

2.支出の部

項目	予算額	決算額	摘要
(1)修繕費	0	0	梅苑会館修繕費
合 計	0	0	

平成28年度 県立福島高校同窓会太宰府梅基金会計決算書

収入決算額…2,483,290円 支出決算額…1,032,588円 次年度へ繰越額…1,450,702円

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	1,384,994	1,384,994	
(2)繰入金	0	200,000	同窓会後援会より
(3)同窓会梅基金	1,000,000	898,200	同窓会会員（739名）
(4)雑収入	50	96	利息
合 計	2,385,044	2,483,290	

2.支出の部

項目	予算額	決算額	摘要
(1)飛び梅維持関係	600,000	1,021,788	旅費、接待費、諸経費
(2)飛び梅管理費	40,000	10,800	消毒代
(3)予備費	1,745,044	0	
合 計	2,385,044	1,032,588	

平成28年度 福島高校同窓会一六回奨学会計決算書

収入決算額…3,500,000円 支出決算額…2,500,000円 次年度へ繰越額…1,000,000円

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	0	0	
(2)繰入金	3,500,000	3,500,000	平成28年度分
(3)雑収入	0	0	利息
合 計	3,500,000	3,500,000	

2.支出の部

項目	予算額	決算額	摘要
(1)交付金	3,500,000	2,500,000	平成28年度交付金（5名）
合 計	0	2,500,000	

同窓会会長
渡辺 健寿
(高校第17回卒)「川崎前会長の
志を継いで」

昨年5月9日、川崎眞二前会長は逝去されました。川崎前会長は平成23年11月、同窓会長に就任され、母校の発展を期して同窓会の活性化、会員の増強に大いに力を尽くされました。前会長を偲びながら、心からご冥福をお祈り申し上げる次第です。

前会長在任中には、東日本大震災の後、逆境にある在校生を元気づけるために、福島高校の徽章「梅花」に因んで太宰府の梅を福島高校へという計画を同窓会全体の事業として引き受け進めていただきました。

平成26年2月、前会長自ら太宰府天満宮に赴き5本の梅の恵与を受けて以来、毎年の交流があり、昨年2月には当方から太宰府へお礼参り、「福高の暁」を献梅、6月と11月には太宰府から梅木剪定に來校していただくなど、事業は福島高校同窓会と太宰府とを結ぶ強い絆として定着しています。

川崎前会長は、同期会に加え

地域、職域、部活動OB会などの連携を縦横の糸に織り込んで密にし同窓会組織を強固にするということを常々提唱しておられました。私は、川崎前会長のご遺志を引き継ぎ、関東梅苑会、みやぎ梅苑会に加え、地域同窓会、職域同窓会を立ち上げ、各部活のOB会から同窓会役員、理事を引き受けていただくなど同窓会組織の一層の充実をはかりたいと考えています。

昨年4月、高校第16回卒業生の篤志により、本校を卒業し経済的に困窮の事情にあつて人物及び学業ともに優れた大学に進学した生徒に大学入学一時金として50万円を給付するという福島県立福島高校同窓会一六回奨学金が設立されました。今年は第一期生として5名の生徒を採用決定し、8月19日に第1回の奨学金授与式を行いました。

5月14日、「福島高校」の校名の縁で來校された福岡県立福島高校同窓生より、福島復興、

福島高校の発展を祈念する「希望の桜」の寄贈を受けました。

5月27日には関東梅苑会総会、9月15日にはみやぎ梅苑会総会が開催され、私も出席させていただきました。それぞれの会の結果力の強さを目の当たりにして大いに感激いたしました。

同窓会総会は11月25日福島グリーンパレスにおいて300名を超える同窓生の参加を得て盛会裡に終了することができました。総会では大橋靖雄氏（高校第24回卒）の記念講演「がん予防と疫学」と在校生合唱部の合唱で会を盛り上げていただきました。

平成30年度には福島高校創立120周年を迎えることとなりますので、現在、記念事業、記念式典の準備立ち上げの段階です。会員の皆様には一段のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

福高
同窓会総会

平成28年度「福高同窓会総会」が11月25日（金）18時からホテル福島グリーンパレスで開催されました。総会に先立って中央大学理工学部人間総合理工学科教授・東京大学名誉教授の大橋靖雄氏（高校24回卒）による「がん予防と疫学」と題した記念講演がありました。大橋氏の講演は、平成23年度総会に続くもので疫学についての説明から、情報化社会を生きるわれわれが正しい情報をいかに見極めるまで資料を提示しながら時にユーモアを交えて熱く講演頂きました。さらに福島高校合唱部による合唱が披露され涙声の美しい調べに耳を傾けました。

総会では各議案の承認がなされ、つづいて行われた懇親会も盛況のうちに幕を閉じました。

お悔やみ

川崎眞二前会長は同窓会発展のために精力的に行動され、大きな功績を残されました。謹んでお悔やみ申し上げますとともに心よりご冥福をお祈り申し上げます。われわれ同窓会一同は、前会長の意思を受け継ぎ、新会長の下、さらなる発展を目指していききたいと考えております。

なお、第2回役員会の席上、川崎前会長のご長女恵美子様から「太宰府の梅基金」に多大なるご寄付をいただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



関東梅苑会だより

勉強一筋の福高生 東京で俳優の道に

佐藤 B作さん
(高校19回)



■B作さんの

高校時代を教えてください。

信じてもらえないでしょうが、勉強一筋の少年でした。部活は中学時代（大島中）からやっていた吹奏楽。でも2年でやめてからは受験勉強です。とにかく東京の大学に行きたかった。それも早稲田に行きたかったんです。当時は学校の雰囲気すべてがそうだった。「勉強やれ、勉強やれ」という雰囲気。先生同士も「おれのクラスから東北大に何人受かった」なんて競争しているような感じでした。

だから、女の子と会話しただけはありせん。3両編成の飯坂電車1両目の後方に乗る桜の聖母の女子高生と会えば、その一日ラッキーみたいな奥手な生徒でした。学校も男ばかりで事務室の女性が本当に美しく見えた。実際きれいだったかもしれないけど。

将来の夢は商社マン

■大学受験は商社マンがでしたか。

早稲田大学商学部で現役合格しました。慶応とか明治も受けたけど、すべて商学部。将来、商社マンになりたくてね。入学後すぐに「外交学会」というサークルに入ったり、英会話の勉強も始めました。だから毎日下井草の下宿と学校の往復です。下宿の大家さ

んから「たまには友達でも連れてらっしゃい」なんて言われたほどでした。

でも、5月になったら、すべてが厭になっちゃった。きっかけは今でも分かりません。大学に行かず、歌舞伎町のジャズ喫茶で時間を過ごす毎日。そんな生活がしばらく続いたある日、たまたま下宿で「若者たち」という青春ドラマの再放送を見た。確か土曜日の夕方だったかな。同世代の若者の一生懸命に生きる姿を見て、このままぶらぶらしてはいけないと一念発起。何故か演劇に向かうんです。

それが早稲田の学生劇団「木霊（こだま）」で、久米宏さんや田中真紀子さんが所属されていたところ。ここで人生がガラッと変わりました。

■劇団での生活は。

新人ですから昼は大道具づくり、夜は先輩たちの稽古を見て勉強です。チェーホフの「かもめ」とかね。学生同士ですが、思うように演技ができなくて、怒られたり泣いたりした世界。でも稽古が終われば劇団員一同、輪になって劇団歌を歌ったり、酒を飲んで騒いだり。飲めなかったお酒も飲めるようになって、好きな女性もできました。

最初は裏方でしたが、ある日オーディションがあって、新入生

劇団創立40年を迎えて

■2013年に劇団立ち上げから40年を迎えました。

現在、創立40周年記念興行で全国をまわっています。その脚本の一つを作家の三谷幸喜さんに書いてもらいました。私はどうして生まれ育った福島のことを書いてもらいたかったのか、東北の村の村長選挙を舞台にしたお芝居」をお願いしました。

そしてできあがったのが「田茂神家の一族」です。念願かなって2015年には福島市でも公演しました。喜劇ですから、復興に向けて少しでも楽しい時間を過ごして、元気になってもらいたいとの思いでした。お陰さまでここよりも入場者が入って、どこよりも笑ってもらえました。

これからもずっと喜劇にこだわっていきたくですね。芝居を観



「田茂神家の一族」から【撮影：加藤孝】

20人の中から私1人だけ役をいただいた。「おまじどう、ラーメン一丁」なんて言って、交番に出前を届ける青年の役ですが、この役で自信を持ったのでしようか、俳優の道に引きずり込まれていきました。

春と秋の年2回公演ですが、毎日が稽古です。たまに学校の授業に出ると、仲間が「なんだ。授業なんか出るな」という感じでした。そうこうして大学は3年でやめて俳優を目指しました。

憧れの早稲田を中退

■めざしたのが、

どうして俳優だったのでしょうか。

大学をやめて就職できない人間の進む道は、なぜか俳優しかないって決めた。今思えば俳優のほうが普通のサラリーマンより食べるのが大変なのにね。思い当たるのは小学校4年から6年まで演劇部に入っていたこと。もしかしたら心の奥底にこの経験があったのかも。顧問の先生が脚本を書いて演出して、年に何度か公演したり、校内放送でラジオドラマもやりました。放課後は講堂で先生に厳しく演技指導された。「演劇は厳しいもの」という刷り込みもこの頃かも知れません。

福島に帰って両親には大学を

に来てくれた人が、笑ったり、泣いたり。芝居が終わって小屋から出たときに、「今日は良いものを観たね、楽しかったね、あすからも頑張ろう」という気持ちになれる芝居を俳優として演じ続けていきたいと思っています。

■福高後輩への

激励メッセージをお願いします。

何より自分がやりたいもの、やりたいことを見つけることです。ね。職業でも何でも良いから、とことん自分を信じて、自信が持てるまで努力して、「なるんだ」と思い込めること、つまりは「好きになれること」だと思います。

でも、今は頑張らなくてもそこそこ生きていける時代です。夢をかなえるための出会いやきっかけは、自分で努力して見つける必要がある。だからこそ、そこで見つけたものが本当に求めている答えになると信じてほしいです。



「その場しのぎの男達たち」から【撮影：加藤孝】

やめたいと正直に話しました。長男がせっかく東京の大学に入っただのに、やめて俳優になるなんて言ってるわけですから、勘当です。仕送りもなくなりました。

■その後の俳優生活について。

学生ではなくったので新しい劇団を探しましたが、受ける劇団にすべて落とされました。そんななか、六本木の「自由劇場」の創立メンバーに佐藤博さんという福高OBがいると知り、さっそく訪ねて「入団試験に落ちたんです」と泣きつきました。佐藤さんが「そんなに演劇が好きなら、裏方の仕事でよかったです」と口をきいてくださいました。

裏方は小道具づくりや舞台の音響の仕事でした。特に音響の仕事は筋が良かったらしくて、俳優は働き口がたくさんあって俳優よりも食えるぞと何度も誘われました。でも半年まじめに務めてようやく俳優にしてみたいと思いました。もちろん給料はありませんか

ら、稽古以外の深夜から朝まではアルバイトを掛け持ちです。

売れない頃に辛かったのは、福島に帰省する時です。おふくろからは、「近所に目立たないように帰れ」と言われてました。だって近所では東京の大学を出たことになってるんですから。なるべく夜遅く福島に着いて、朝6時の始発の飯坂電車に乗って街に追われるように東京に帰りました。それでもおふくろは駅まで見送りに来て、頑張れて手を振ってくれました。

その後、24歳のときの劇団「東京ヴォードヴィルショー」を結成しましたが、アルバイト生活は10年以上つづきました。

欽ちゃん番組で人気に

■テレビでも活躍するように

売れたきっかけは、萩本欽一さんです。ちょうど30代半ばにかけ

テレビで売れたら芝居のお客さんも増え、ドラマの仕事も来ました。お茶の間に知られるようになったら今度は福島に帰省しても大歓迎ですよ。「佐藤B作、ただいま帰って参りました！」って飯坂温泉をまるで凱旋パレードでした。

2017年度 定期総会&合同同期会

- 日時：平成29年5月26日（金）
【受付】18時 【開宴】18時半
- 会場：東京グリーンパレス（麹町）

特別ゲスト

佐藤B作さん(高校19回)



「広げよう！親睦と交流の輪を」 みやぎ梅苑会総会・懇親会開催

平成28年度みやぎ梅苑会総会が9月15日仙台市青葉区のハーネル仙台にて開催された。今年は大生から80代まで約70名と過去最高の出席者が集い開会した。

みやぎ梅苑会だより

総会は橋本俊一氏（高21回）の司会のもと物故会員に黙祷を捧げた後、鈴木征夫会長（高12回）が「同窓生の絆を深め、同窓会を盛り上げて行きたい」と挨拶し議長席に着いた。

議案として①平成27年度事業報告・会計報告及び監査報告、②平成28年度事業計画案・予算案、が審議され何れも満場一致で承認された。

恒例の懇親会は同窓会の渡辺健寿会長、母校より菅野誠校長、半澤裕介PTA会長、関東梅苑会より二階堂晋一会長、島田久幹事、同窓会本部より今関達也事務局長、渡邊兼綱・中原勝両事務局次長を来賓にお迎えし開会した。

挨拶に立たれた渡辺健寿会長から太宰府天満宮へ御礼として「福高の晩」の若木を植えて頂いたことなどの報告と、「地域・職域で同窓会の絆を深めたい」とご挨拶があり、菅野誠校長からは大学進学状況や文化部・体育部各部の活発な活動な

ど生徒達の文武両面での活躍の紹介を兼ねたご挨拶がありました。

会では各来賓の方々からのご挨拶、恒例の初出席者の方々のショートスピーチおよびNHKプロジェクトX風AKAZA会のショートムービーなど、名司会の進行のもと大きな盛り上がりの中で進み、同じ学び舎を巣立った同窓生が来賓の方々を含め互いにテーブル間を移動し、世代・職域を超え和気藹々と賑やかに交流をしました。

その後、合唱部OBの西村晃一（高28回）・駒場悟（高32回）両氏のリードにより出席者全員で校歌を高らかに歌い上げ、最後に90代応援団長佐久間崇裕氏（高41回）の伸びと張りのある声のリードにより全員による応援歌とエールにて熱気は更にヒートアップ、参加者から「楽しかった。良かった。」との言葉を頂きながら1年後の再会を期し盛会裡に終了した。

column

見事なハーモニーで校歌を披露 第8回「土井晩翠先生が作詞した校歌を いっしょに歌いましょうの会」参加



仙台市出身の詩人土井晩翠が作詞した全国各地の校歌を、在校生や同窓生が披露する題記の会（没後50年にあたる平成14年より隔年毎に開催）が10月16日（日）に氏の出身校である仙台市立立町小学校にて開催されました。

第8回に当たる今回は初参加の3校を加え過去最多の参加校となり、地元の小中学校在校生から高齢の卒業生達まで北海道や高知県など全国各地から16団体が校歌を発表し、5団体が録音で披露しました。

みやぎ梅苑会は平成15年の第2回より有志が集い継続して参加しており、今回も鈴木征夫会長（高12回）初め15人が参加しました。前回に引き続き東北大学混声合唱団のメンバー3人および福島からも2人駆けつけて頂き、学校紹介のあと、校歌1・2・5番を披露、会場一杯に見事な声量とハーモニーを響かせ満場の拍手を浴び地元紙にも校名入りで掲載されました。



福島県のアンテナショップ「日本橋ふくしま館 MIDETTE（ミデッテ）」は、首都圏における地域情報の発信拠点として2014年4月、東京・日本橋にオープンした。福島が全国に誇る日本酒や果物、工芸品などの特産物を取り扱うとともに、季節の観光情報や食の安全・安心をPRしている。昨年11月には来館者100万人を突破。首都圏在住の福島県出身者のみならず、全国的な知名度アップに貢献するお店になった。



郷土の名産一堂に首都圏で情報発信 日本橋ふくしま館 MIDETTE（ミデッテ）館長 加藤泰広さん（高校38回）

店名の愛称である「MIDETTE（ミデッテ）」は、福島県の皆さんご存じの「見でつて」という方言から取られたもの。「見てね、来てみてね」という、お客さまをお誘いしてお迎えする「おもてなし」の気持ちを表した言葉です。日本橋は江戸の中心地で、今でも全国各地のアンテナショップが集中しており、銀座や東京駅にも近いので、どなたも気軽に立ち寄りいただきたいと思っています。

オープンから館長を務める加藤さんは、福島県職員から公益財団法人福島県観光物産交流協会への転出。福島市立第三中学を卒業、福島大学後はハンドボール部に所属。創価大学卒業後、1992年福島県に入庁した。これまで福島空港開港に携わったり、県大阪事務所への赴任経験はあるものの、東京での単身赴任はもちろん店舗の運営は初めての経験だった。

2014年4月12日のオープン

初日にはNHKの朝のニュースで紹介されました。消費増税と時期が重なる苦勞もありましたが、首都圏で福島県の復興を応援したいというたくさんの方の熱い思いに支えていただき、なんとかオープンにこぎつけました。お客さまから「おいしかった」「がんばって」「また来るよ」と声をかけていただいたことが大きな励みになりました。

都内での復興イベントの出店で福高の同級生と15年ぶりに再会するなど人との縁や郷土の人の心の温かさをいつも感じています。実際に東京に住んで

東京でしか得られない貴重な経験を通して、あらためて福島県のすばらしさが実感できたことは大きな収穫です。福島県には全国に自慢できるすばらしい名産品がたくさんある。このことが、郷土に対する自信につながっています。

昨年11月には来館者100万人を達成。これからの目標は、おかげさまでオープンから約2年7カ月で100万人の来館者を達成できました。ご利用い

ただいとお客さまに感謝するとともに、より愛されるアンテナショップづくりにスタッフ一丸となって取り組みます。今後も当館を応援していただける「リピーター」を増やすためにも商品を充実していく考えです。広さ450平方メートルの店舗には、食品2100点、工芸品400点のあわせて2500点の厳選された名産品が並び、いま加藤さんが取り組んでいるのが、福島県の生産者と首都圏の消費者の交流の場をつくることだ。「旬の産品を通じて福島を季節をお届けする」ために、生産

東京メトロ「三越前駅」、JR「新日本橋駅」から歩いてすぐ



者の皆さんに当館まで来ていただいて自慢の産品を直接PRしてもらおう取り組みが好評です。ラーメン、蕎麦、日本酒、果物、伝統工芸品など自治体・商工会を含めてこれまで約200団体に「ご参加いただいています。これからますますの皆さんと首都圏のお客さまとの対話・交流をお手伝いしながら、もっともっと福島県の魅力を伝えていきたいですね。」

進学希望の動向、津々浦々に咲き誇れ、梅の花！

平成二十九年年度の大学入試センター試験は、新学習要領への移行に伴い、昨年、英語・国語・地歴・公民が新課程に移行し全科目について新学習要領範囲での実施となったため出題分野や実施方法や出題内容について変化はなく生徒達に混乱は見られなかった。総受験者数は五十四万七千八百九十二人で昨年より一万一千六十四人多かった。

全国の科目別平均点では、昨年、大幅に上昇した国語（二百点満点）が二十二点ダウンした。一方、英語（同）は十一点程度、数学は数学Ⅰ・A（百点満点）で五一点程度、数学Ⅱ・B（同）で四一点アップした。理科では文系生を受験が中心となる基礎科目は生物基礎（五十点満点）が三十九点七点で過去最高だった一方、大半の理系生が受験する化学（百点満点）が五十一・九四点で過去最低となり、理系生は理科で得点できなかったと感じる生徒が昨年度に続き多いのではないかと。多くの国立大で必要となる七科目の平均点は、文系型で若干の上昇、理系で若干のダウンが見込まれる。そのような状況の中、本校の三年生は全国平均と比較し文系型、理系型とも六十五点程

進学展望

度上回る予想だ。

全国の学部別動向は、いわゆる「文高理低」の傾向が続いているが、系統による差も見られ、文系では人文法系が以前の人気を回復しつつある。理系では通信情報系、建築土木系の人気が高まっている。

本校における志願動向だが、国立では旧帝大を中心とした難関大学や地域拠点大学への出願もほぼ例年通りだった。具体的な出願数については、下記の「入試出願状況」に示す。

東北大の出願数は、前期だけで見ると昨年同様、五十五名である。また、福島大は前期で二十八名の出願で昨年より3名減。福島県立医科大学の前期は医学部に6名、看護学部が5名が出願した。新潟大への出願が例年より増加した。私立大学では例年通り、東京六大学を中心に青山学院大、東京理科大学、日本大学などへの出願も目立っている。私立大学の総出願数は、ここ数年はほぼ変わっていない。

福高の精神である「世の為たれ」の実現に向け、全国津々浦々に美しい梅花を咲かせてもらいたい。

入試出願状況（現役の延べ数・推薦、AOは含まない）2月3日現在

項	大学名	平成29年	平成28年	平成27年	平成26年
国公立大	北海道大	16	16	15	13
	岩手大	11	6	6	3
	東北大	59	75	95	69
	山形大	23	34	6	20
	福島大	68	89	63	72
	茨城大	8	17	12	13
	筑波大	18	12	12	22
	宇都宮大	6	3	5	10
	埼玉大	14	13	9	18
	千葉大	31	29	18	36
	東京大	10	10	18	16
	東京外語大	5	3	0	5
	東京工業大	6	3	6	4
	一橋大	0	0	6	7
	横浜国立大	2	8	6	9
	新潟大	52	27	34	32
	京大	4	6	5	8
	その他	66	44	81	53
	県立医科大	22	28	49	56
私立大	県立会津大	3	1	1	0
	高崎経済大	7	6	9	8
	その他	46	40	33	19
	東北学院大	13	15	3	12
	青山学院大	19	14	23	17
	慶應義塾大	8	14	30	25
	上智大	10	8	2	5
	中央大	66	65	64	42
	東京理科大	21	28	24	21
	日本大	25	26	18	18
	法政大	50	51	48	39
	明治大	58	66	63	74
	立教大	33	19	50	37
	早稲田大	56	40	69	64
	その他	254	269	253	253
	国立大学合計	399	395	397	410
	公立大学合計	78	75	92	83
	私立大学合計	613	615	647	607
総計		1,090	1,085	1,136	1,100

大学合格者数（過年度卒を含む）

項		平成 28年	平成 27年	平成 26年	平成 25年	
合格者数	国公立大	北海道大	6	10	6	9
		岩手大	5	2	4	3
		東北大	40	41	37	26
		山形大	14	12	10	10
		福島大	29	24	21	19
		茨城大	8	4	2	3
		筑波大	6	6	9	7
		宇都宮大	3	0	4	7
		埼玉大	8	5	6	6
		千葉大	12	7	15	14
		東京大	6	5	6	3
		東京外語大	2	2	1	0
		東京工業大	1	0	5	2
		一橋大	0	0	5	3
		横浜国立大	4	2	6	4
		新潟大	16	13	15	9
	京都大	2	3	4	1	
	その他	29	26	22	21	
	県立医科大	17	15	24	17	
	高崎経済大	1	3	4	1	
	その他	13	11	5	16	
	小計	222	191	211	181	
	私立大	慶應義塾大	11	14	15	10
		早稲田大	27	20	27	28
		中央大	31	42	41	27
		明治大	27	31	39	48
		法政大	33	25	41	19
立教大		9	15	17	40	
日本大		18	12	13	17	
東北学院大		7	5	13	5	
同志社大		2	3	7	2	
その他		278	262	239	251	
小計	443	429	452	447		
準大	2	1	2	1		
短期大	3	1	3	1		
各種学校	4	0	0	0		
合計	674	622	668	630		
就職	0	0	0	1		

福高の絆「希望の桜」への思い

福岡県立福島高等学校
昭和46年度卒業生
副会長 今村辰子

あの衝撃的な東日本大震災から六年が過ぎましたが、その間ずっと福島高校の事が気になっていました。私達は福岡県立福島高校の卒業生ですが、母校と同じ名前だということ、なんだか他人事とは思えなかったのです。

私達は四年前に還暦同窓会を開き、これまでの人生を振り返った時、福島高校で学んだ三年間が人生の礎となり、その良き思い出と共に学んだ仲間が人生の原動力だったとの思いに至りました。今日まで生かして頂いたことに感謝するとともに、これからは何か少しでも人のお役に立つようなことができればいいなと話合いました。そして、これまでの人生で最も衝撃だった東日本大震災、その復興祈念とともに福島高校の生徒さん方の健やかな成長を願って、貴校の校庭に桜の木を植樹させていただく事をお願いしました。

それから三年。昨年5月に晴れて福島の地を訪れ植樹させていただき、貴校の皆様のおかげで対応に大変感謝をいたしました。この桜の木には震災の復興と生徒さん方の希望あふれる人生を見守ってほしいとの願いを込めて「希望の桜」と名付けました。

私達は遠く福岡の地から一日も早い復興と、福島高校の益々の発展をお祈りし続けますとともに、春には美しく咲いた希望の桜を見に行くことを楽しみにしています。



部活動成績

【アーチェリー部】
●全国高等学校総合体育大会
男子 個人戦（鈴木 龍）
女子 個人戦（三浦 晶）

【囲碁部】
●全国高等学校囲碁選手権大会
男子 団体戦 個人戦 鈴木 龍
女子 団体戦
●全国高等学校総合文化祭 囲碁部門
団体戦 福岡県代表 滝田 真大
女子個人戦 廣川 佳央莉

【将棋部】
●全国高等学校将棋選手権大会
●全国高等学校将棋新人大会
●全国高等学校将棋電王戦
男子 個人戦 野田 大輔

【将棋委員会】
●全国高校新聞年刊紙面審査 優良賞

【ジャズ研究部】
●全国高等学校総合文化祭
音楽・音楽部部門

【フイズ研究部】
●全国高等学校クイズ選手権
●全国高校生金銭経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」

【SS部】
●化学グランプリ 2016 銅賞 羽田 浩樹
●全国高等学校総合文化祭 自然科学部門 生物・化学部
●日本学生科学賞（中央審査 入選3等）…「マグネシウム二次電池に関する研究」
●高校化学グラウンドコンテスト（ポスター賞）…「マグネシウム二次電池に関する研究」
●科学・技術論文対抗英世賞（優秀賞）…「福島高校の高校生環境水質調査」
●日本動物学会東北支部大会（優秀賞）…「硬骨魚における好適環境水の機位性」
「アホロートルの繁殖に関する研究」



福島高等学校長
菅野 誠

同窓会員の皆様方には、日頃より母校に對しまして物心両面に亘る絶大なる御支援と御協力を賜っておりますことに心より感謝申し上げます。

さて、今年度も生徒たちは様々な分野で活躍を見せてくれました。運動部では、中国地方で開催された全国高等学校総合体育大会に、アーチェリー部が男女個人で、部はありませんがフェンシングでは個人として出場しました。文化部では、広島県で開催された全国高等学校総合文化祭に、囲碁

部が男子団体の一人として、女子では個人で、将棋部が個人で、さらに梅章委員会、JANZ研究部、SS部が出場し、加えて個人として吟詠詩舞部門にと多くの生徒が出場しております。梅章委員会は全国高校新聞年間紙面審査入賞により、来年度も続けて出場することが決まりました。

囲碁部（男女団体と男子個人）と将棋部（男子個人）はそれぞれの全国大会にも出場を果たしました。また、クイズ研究部が全国高等学校クイズ選手権とエコノミクス甲子園に出場しました。さらに、SS部は首都圏の四都県と五つの政令指定都市で構成される九都県市首脳会議に招かれて福島県の復興について意見を発表し、そのメッセージが千葉市での三月に発行される「ちば市政だより」に掲載されることになりました。

このように生徒たちの活躍の場は年々広がりをみせています。これも文部科学省が推進するSSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業に取り組んできた大きな成果です。SSH事業の目的は国際的に活躍する有為な科学技術系人材を育成することにあります。SSH事業そのものがキャリア教育であり、本校が取り組む主たる目的は、「梅章の教え」を体現し、「福高での学び」を確立することにあると考えております。本校のSSH事業は今年度が二期目の最終年となりませんが、現行の大学入試センター試験に代って平成三十二年大学入試からの導入が予定されている「新テスト」が、SSH事業

の成果をもとに打ち出されてきていることも踏まえれば、二期目に取り組むことは必然のことと考えており、先頃事業の継続を申請したところであります。平生の授業の充実が勿論のこと、SSH事業やリベラルゼミ等を通して、未来を担う生徒たちが、獲得した知識・技能を活用して、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力や主体的に物事に取り組む姿勢を身に付け、しっかりと羽ばたいていくことができるよう教職員一同力を合わせて努めてまいります。

本校の教育活動をさらに充実したものとするためには、会員の皆様のお力添えが不可欠です。今後とも、母校に對するより一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

寄贈図書紹介 (平成28年1月～12月)

寄贈年月日	書名	著者名	寄贈者(敬称略)	寄贈年月日	書名	著者名	寄贈者(敬称略)
28.01.15	トコトンやさしいレアアースの本人と海洋の共生をめざして150人のオピニオン Ⅵ	西川有司、他	日時一徳	28.07.01	国会事故調査東京電力福島原子力発電所事故調査委員会調査報告書 会議録	東京電力福島原子力発電所事故調査委員会	黒川清
28.01.15	七五調源氏物語 3	中村博	海洋政策研究所	28.07.01	国会事故調査東京電力福島原子力発電所事故調査委員会調査報告書 参考資料	東京電力福島原子力発電所事故調査委員会	黒川清
28.02.24	修羅はよみがえった	宮沢賢治記念会	中村博	28.07.01	国会事故調査東京電力福島原子力発電所事故調査委員会調査報告書 要約版	東京電力福島原子力発電所事故調査委員会	黒川清
28.02.24	宮沢賢治	宮沢賢治記念会	宮沢賢治記念会	28.07.01	The official report of the Fukushima Nuclear Accident Independent Investigation Commission executive summary	東京電力福島原子力発電所事故調査委員会	黒川清
28.02.24	いっしょに 2015	「いっしょに 2015」制作委員会	黒松ボランティア協会	28.07.01	七五調源氏物語 4	中村博	中村博
28.02.24	旅草のつむぎ	黒平製作所	グマヒラ	28.07.01	吉田美和歌詩集 LOVE	吉田美和	「吉田美和歌詩集」寄贈企画事務局
28.02.24	「第13回八香会となかま展」出品作品の記録	福高第13回卒同窓会・八香会	春山悠朗	28.07.01	吉田美和歌詩集 LIFE	吉田美和	「吉田美和歌詩集」寄贈企画事務局
28.03.04	県文学集 第63集 平成27年度版	福島県文化スポーツ局文化振興課	福島県	28.07.01	吉田美和歌詩集 TEARS	吉田美和	「吉田美和歌詩集」寄贈企画事務局
28.03.04	発信する学校図書館ディスプレイ	吉岡裕子、遊佐幸枝	福島県高等学校司書研修会	28.07.01	ミロのヴィーナスはなぜ傑作か?	高橋秀爾	角田勝重 (福高14回卒)
28.03.14	県文学集 第63集 平成27年度版	福島県文化スポーツ局文化振興課	福島県	28.07.01	憲法第九条	小森敦司	角田勝重 (福高14回卒)
28.03.14	卒論・修論発表会を乗り切るための理系プレゼンの五輪書	斎藤恭一	筑波大学	28.07.01	日本はなぜ原発できないのか	小森敦司	角田勝重 (福高14回卒)
28.03.14	元素の事典	山崎純	筑波大学	28.07.01	原発のウソ	小出祐章	角田勝重 (福高14回卒)
28.03.14	もっと知りたい! 「科学の芽」の世界 1-4	「科学の芽」実行委員会	筑波大学	28.07.01	死をみつめる心	幸田英夫	角田勝重 (福高14回卒)
28.03.14	生物学オリンピック問題集 実験編	国際生物学オリンピック日本委員会、筑波大学問題集(実験編)編集委員会	筑波大学	28.07.01	行政不服審査法の使いかた	岸本英治、板垣勝彦、他	板垣勝彦 (福高51回卒)
28.03.14	福島高 梅草 縮刷版 「梅草」153号・168号	福島県高等学校梅草委員会	福島県高等学校梅草委員会	28.07.01	フランス人のブブさん	まじこ	福島県職員
28.03.23	ポスト資本主義	広井俊典	福島県職員	28.07.01	永遠の平和を願った春	宗像照男、熊田元、久保田親樹	宗像照男、熊田元、久保田親樹
28.03.23	ハンナ・アーレント	矢野久美子	福島県職員	28.07.01	楊太関係資料図録 楊太を生きた	片岡英明	片岡英明 (福高21回卒)
28.03.23	新・幸福論	内山節	福島県職員	28.07.01	若い教師のための授業・HRづくり	上野千鶴子	角田勝重 (福高14回卒)
28.03.23	生命と偶然性	茂木健一郎	福島県職員	28.07.01	上野千鶴子の選集	上野千鶴子	角田勝重 (福高14回卒)
28.03.23	現象学という思考	田口茂	福島県職員	28.07.01	「教育七五三」の現場から	藤井宏志	角田勝重 (福高14回卒)
28.03.23	映画とは何か	三浦哲哉	福島県職員	28.07.01	書かざる事件	ジーン・ウェプスター	あしなが育英会
28.04.20	訓解だらけの遺伝子組み換え作物	小島正美	エネルギーフォーラム	28.07.01	七五調源氏物語 5	中村博	中村博
28.04.20	福島県短歌選集 第62巻 平成27年度版	福島県短歌人会	福島県短歌人会	28.11.04	数学オリンピック事典 基礎編・応用編 (2冊組)	数学オリンピック財団	東邦銀行
28.04.20	東海福島県人会会報 ふくしま 創立40周年記念誌	東海福島県人会	太田賢一	28.11.04	岩波講座現代 1、3-9	大澤真幸	東邦銀行
28.04.20	海洋白書 2016	海洋政策研究所	海洋政策研究所	28.11.04	小説・マンガで見つける! すてきな仕事 1-5	学研教育出版	東邦銀行
28.04.20	東日本大震災記録写真集 「あの日」から私たちが歩んできた1827日	福島県	福島県	28.11.21	角田勝作とドナルド・キーン	群馬県立土屋文明記念文学館	群馬県立土屋文明記念文学館
28.05.02	日本の反知性主義	内田樹	福島県職員	28.11.21	FUKUSHIMA FOUR SEASONS	鈴木一利	鈴木一利
28.05.26	建設機械レンタル会社図鑑	いわた慎二	ナビット	28.12.12	あなたにとって「働く」ってどういうこと?	福島県立高等学校各種学校連合会	福島県立高等学校各種学校連合会
28.05.26	フルメールとレンブラント	TBSテレビ	福島県教育庁	28.12.15	テレビ現場からの告発! 安倍政治と言語統制	週刊金曜日	角田勝重 (福高14回卒)
28.05.26	高校生活君! 医療・福祉施設が福島では、おもしろいんだってよ	教育用冊子編集委員会	福島県教育庁	28.12.15	総合社会科入門	おかいさむ	岡崎勇
28.05.26	タスキメシ	横濱清	福島県職員				
28.05.26	ギケイキ	町田雄	福島県職員				
28.06.07	規則の虜	黒川清	角田勝重 (福高14回卒)				
28.06.07	夕陽を語 1-8	加藤周ー	角田勝重 (福高14回卒)				
28.07.01	規則の虜	黒川清	黒川清				
28.07.01	国会事故調査東京電力福島原子力発電所事故調査委員会調査報告書 本編	東京電力福島原子力発電所事故調査委員会	黒川清				

(その他多数の寄贈図書を行いました)

福島県立福島高等学校同窓会 役員および事務局員

平成28年度 同窓会役員

会長	渡辺 健寿	高17回
副会長	鈴木 征夫	高12回
副会長	内池 浩	高14回
副会長	二階堂 晋一	高16回
副会長	久米 允郎	高16回
副会長	片平 康市	高19回
常任理事	佐藤 紀男	高11回
常任理事	斎藤 晋	高12回
常任理事	鎌田 健郎	高13回
常任理事	林 昌良	高14回
常任理事	永倉 雄司	高15回
常任理事	佐藤 守	高16回
常任理事	富田 健一郎	高16回
常任理事	長谷川 好美	高17回
常任理事	歌川 和夫	高17回
常任理事	新飯 英二	高18回
常任理事	佐藤 悠久	高19回
常任理事	本多 修二	高20回
監事	鈴木 芳雄	高19回
監事	松野 孝司	高20回
監事	角田 恒雄	高12回
監事	三瓶 昌久	高13回

理事	久家 孝夫	高13回
理事	上竹 晋	高14回
理事	萩原 義弘	高14回
理事	大谷 司	高14回
理事	岡崎 勇三郎	高15回
理事	鈴木 興一	高16回
理事	渡辺 博美	高17回
理事	横山 純	高17回
理事	木戸 孝志	高17回
理事	小林 勇一	高17回
理事	勢島 昇	高18回
理事	斎藤 高紀	高18回
理事	本多 純一郎	高19回
理事	花井 宣明	高20回
理事	伊藤 幹夫	高20回
理事	横田 哲郎	高21回
理事	佐藤 信雄	高21回
理事	佐々木 孝司	高21回
理事	中田 茂美	高21回
理事	尾形 克彦	高22回
理事	芳賀 裕	高22回
理事	黒澤 信雄	高22回

理事	大野 順道	高22回
理事	木村 晋	高22回
理事	曾野 日出喜	高23回
理事	加藤 典義	高23回
理事	村上 正文	高23回
理事	江口 淳	高23回
理事	横山 寿男	高23回
理事	鈴木 浩一	高23回
理事	高橋 雅行	高24回
理事	石谷 修一	高24回
理事	三原 彬人	高24回
理事	渡辺 誠	高25回
理事	渡辺 久	高25回
理事	後藤 忠久	高26回
理事	土屋 健雄	高26回
理事	丹治 正博	高26回
理事	武藤 進	高26回
理事	岡部 芳和	高27回
理事	片平 淳	高28回
理事	石川 俊道	高28回
理事	加藤 勇治	高29回
理事	金子 弘保	高29回

理事	土田 淳	高29回
理事	島田 久	高31回
理事	八子 直樹	高31回
理事	大和田 利明	高31回
理事	太田 英晴	高31回
理事	樋口 幸一	高32回
理事	藤野 貴	高32回
理事	鎌木 雄司	高33回
理事	吉成 健二	高33回
理事	関根 英樹	高33回
理事	渡辺 健二	高33回
理事	手塚 徹	高34回
理事	鈴木 宏幸	高36回
理事	阿久津 順二	高37回
理事	黒森 龍一	高37回
理事	板垣 隆	高37回
理事	大橋 龍人	高37回
理事	三浦 康伸	高39回
理事	日下 直樹	高39回
理事	引地 孝之	高44回
理事	吉田 大樹	高45回
理事	藤澤 武義	高52回

平成28年度 同窓会事務局員

松浦 健二	高18回
田中 訓樹	高22回
大橋 良一	高27回
塩澤 隆	高28回
今岡 達也	高28回
関分 聡	高33回
丹治 明	高36回
渡邊 義典	高36回
佐藤 雅夫	高37回
本多 悠秀	高40回
中原 勝	高41回
八巻 勤	高42回
松井 輔彦	高53回
菅野 隆介	高54回

同窓会事務局 (福島高校内)
〒960-8002 福島市森合町5-72
TEL.024-535-2391 FAX.024-535-2392

みやぎ梅苑会事務局
〒981-0923 仙台市青葉区東藤山2丁目22-6
TEL.022-275-2887 (落合 敏伸)

関東梅苑会事務局
〒150-0043 渋谷区道玄坂1-15-3 プリメーラ道玄坂110号信陵会館内
TEL.03-3462-1225 FAX.03-5489-1358 (渡邊 誠)
<http://www.kantobaienkaie.ne.jp/index.html>